

令和四年度



三宅村立三宅中学校

学校だより

第 166 号

令和 5 年 3 月 1 日

校長 小澤 秋仁

東京都三宅島三宅村伊豆 470

TEL 04994-2-0049

FAX 04994-2-1376

<http://miyake-chu.sakura.ne.jp/>

子供を笑顔にするプロジェクト

校長 小澤 秋仁

2月6日に、フィジカルコメディアンのカッチさんと小島屋万助劇場の小島屋さん、羽鳥さんをお迎えして「子供を笑顔にするプロジェクト」が開催されました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事が中止や縮小となっている中、子供たちがより質の高い芸術や文化などに触れ豊かな感性を養い、笑顔を取り戻し、体験を通して学び続けていこうとするきっかけの一つとしたいという東京都教育委員会の考えでスタートした事業です。

パフォーマンスはもちろんのこと、パントマイム教室や「夢は叶う」と題して、どうやって世界に通用する一流のパフォーマーになる夢を実現したか、語っていただきました。終了後、マネージャーも含めて四人の方々から校長室でお話を伺ったのですが、興味深いものがあったので、いくつかご紹介します。

カッチさんはアメリカへ旅行した際に、大道芸の盛んなサンタモニカを訪れました。そこは強者芸人ばかり。一輪車に乗りながらスイッチの入ったチェーンソーをジャグリングする者、火を吹く者、レベルの差を感じてしまう圧巻のパフォーマンスでした。近くのお店で買った画用紙などを工作した小道具で対抗しようとしたのですが、敵うわけがありません。この衝撃で、彼の気持ちに火が付きます。本場の芸を身につけたいとイギリスへ渡りました。イギリスには、大道芸を学ぶ専門学校があり、そこでパントマイム、ジャグリング、マジック、あらゆる芸を身につけ帰国しました。当初は、仕事の依頼がなく、週休5日で井の頭公園にて大道芸を披露していたこともありましたが、それでもカッチさんは、アルバイトをしません。お金のない生活も気にならなかったといいます。また、日々の懸命に行う練習もつらいと思ったことはありません。それは大道芸が好きだから。大道芸人が自分の仕事だから。

大道芸をこよなく愛し、懸命に取り組む彼に、少しずつ声がかかり始めます。その中のお一人が、当時、海外で活動していた小島屋さんです。小島屋さんに紹介していただいた企画で、後に結成する「が〜まるちょば」の相方、ヒロボンさんに巡り合ったのです。人とのつながりが新たなつながりを作りました。人気は上昇をたどり、最もチケットが手に入らないパフォーマーの中の一組と称され、35か国で公演することになったのです。

小島屋万助劇場のお二人は、海外が長く、認知されるまでは、ピラ配りから会場設営まで全て自分たちの手で

教育目標

「ふるさとの発展に進んで貢献する生徒の育成」

- 1 目標をもって意欲的に学ぶ生徒
- 2 人間性・社会性をはぐくみ、相手の立場に立って行動する生徒
- 3 心身ともに健康で明るい生徒

行っていました。「人がいればそこは劇場と化す」時には歩道で、地下鉄の中で・・・、パントマイムを披露したそうです。「一生懸命だったから何でもできた」と小島屋さんの言葉には重みがあります。

一方、マネージメントをする玄應(げんおう)さんの人生もエネルギーです。英語力を向上させたいと大学卒業後、サンディエゴまでの片道の航空券だけを購入し、その日に泊まる宿もないまま上陸。頼る所のない異国の地に彼を向かわせたのは「行けばなんとかなる。行かなければ分からない。」という思いのみ。実はカッチさんとは大学の同級生。カッチさんが現地の大道芸に衝撃を受けた前出の渡米は、玄應さんを頼ってのことでした。二人のつながりが、世界を笑顔にするパントマイムの出発点であったかもしれません。2年を過ごした後、帰国して生きた英語を伝えるべく英語教員となりました。英語教育や部活動指導で実績を積みますが、昨年、「新しい自分を探したい」と教員を辞めてエンターテインメントの世界に飛びこんだのです。そこにためらいはありませんでした。「行かなければ分からない。」と。

何かに取り組もうとすると、できない理由を探してしまいがちで、一歩を踏み出すことは大変な決心が必要です。しかし、四人の方々から、「踏み出せば何とかなる！できない理由を探す時間がもったいない、考えてダメなら一歩を踏み出してしまえ！」と私が背中を押された様でした。

特別な事をしてきたわけではなく、「好き」からスタートして、目の前のことに「一生懸命」取り組んでいたから「人とつながる」ことができた。「何事にも一生懸命取り組むことが、自分の可能性を広げてくれる」と三宅中生にメッセージを残していただきました。

コロナにより、大打撃を受けたエンターテインメント業界の中で、来年度、カッチさんはヨーロッパを拠点に、玄應さんは子供の笑顔のために、また新たな一歩を踏み出すそうです。

三宅空港で見送ると、別れ際に玄應さんは「なんとかなるから」と笑顔で搭乗口に進んでいきました。

◆学校だよりのカラー版は学校ホームページでご覧になれます。

(「三宅村立三宅中学校」で検索してください。)

2年生みなかみ体験学習・TGG(1/30～2/4)

令和元年度を最後に中止や延期が続いていた群馬県みなかみ町での体験学習を再開することができ、スキー実習や郷土芸能の鑑賞、そば打ちや藍染など様々な体験学習を楽しみました。さらに昨年から延期になっていたTGGでの英語実践学習で旅を締めくくりました。温かいおもてなしをしてくださったみなかみ町の皆様、ご支援いただいた三宅村教育委員会、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



2年生の感想より【一部抜粋】

◆藍染もみんなの個性が出ていて楽しかったし、そばも細く切れて美味しかったし、鈴の家のおばあさんの話はとても勉強になったし、太鼓も迫力があって良かったです。みなかみの人は本当に優しく楽しく過ごせました。TGGでは英語が苦手なのでどうしようかと思ったけれど、喋れなくても通じ合ったり笑い合ったりすることができて、英語が少し好きになりました。

長い旅で疲れることもあったけど、何よりみんなで笑顔で過ごせたので良かったです。(T.R)

◆宿泊先の仁田屋さんには先輩たちが何度も行って、何年も前から関わりがあるんだと感じました。そして赤沢スキー場でも何年も三宅中生がお世話になっていました。僕たちにスキーの楽しさを教えてくれたコーチの方たちも三宅島とのつながりがありました。この移動教室を通していろいろな人との関わり大切さを学びました。(I.K)

◆「一番楽しかったことは」と書く人がいると思いますが、私は今回の体験学習の楽しいことに一番をつけることはできません。なぜなら、どれもとても楽しかったからです。スキーでは自分の成長が感じられ、藍染やそば打ちでは他の人と協力して進めることができました。TGGでは三宅島のことを英語で説明するのは難しかったですが、この体験を通して、少しでも英語を使えば、相手が理解しようとしてくれることを実感できました。(O.R)

ケッチのバントマイム教室(2月6日)

東京都の「子供を笑顔にするプロジェクト」により、元がーまるちょぼのケッチさんらをお招きし、コメディショーとバントマイム教室を実施しました。代表的なバントマイムのコツもわかりやすく教えていただき、笑顔あふれる2時間となりました。



1年生茅葺体験(2月2日・3日)

日本茅葺き文化協会の上野さん、茅葺職人の沖元さん、筑波大学教授の黒田先生、廣田先生、大学院生の方々に指導いただき、学習のまとめとしてススキの刈り取り、小屋づくりなど貴重な体験をすることができました。



令和5年3月・4月 主な予定

1日(水)	都立入試合格発表	
2日(木)	中央委員会	
6日(月)	全校朝礼 避難訓練	
	専門委員会	
7日(火)	3年みなかみ始(昼船発)	
11日(土)	3年みなかみ終(朝船着)	
13日(月)	3年生を送る会	
15日(水)	卒業式予行	14:35 下校
16日(木)	卒業式準備	14:45 下校
17日(金)	第16回卒業式	11:45 下校
22日(水)	保護者会	14:35 下校
23日(木)	大掃除	
24日(金)	修了式 離任式	11:20 下校

※スクールカウンセラー来校予定日

7(火)・14(火)



4/1日(土)	開校記念日	
6日(木)	始業式 着任式	12:20 下校
7日(金)	入学式	12:20 下校
10日(月)	対面式 給食始	

3月の生活目標
自分を振り返り、
有終の美を飾ろう

3月の保健目標
1年間の健康生活
を振り返ろう